

言

義

土木學會誌 第十七卷第十號 昭和六年十月

赴戰江水電工事に就て

(第十七卷第六號及び第八號所載)

會員 鶴田勝三

著者が内地に於ては曾て見ざりし 190 000 k.w. の大發電工事を 5 箇年の永きに亙り海拔 4000 尺といふ高地に於て且つ又交通不便なる邊鄙なる場所で極寒と戦はれつゝ、見事完成せられたことに就ては多大の敬意を表すると共に其の貴重且つ豊富なる御經驗に基づき有利なる御講演を賜はつたことは感謝に堪へない次第である。御話の内容を更に技術的の詳細にまでも進めて戴きたかつたといふ望蜀の念に驅らるゝものであるが特に下記の點に對して御教示を仰ぎたいと思ふ。

第一は堰堤工事に用ゐたるコンクリートであるが配合 1:3:6 で然かも切込砂利を使用し 8 吋キューヴの試験體で試験せられた結果が 1 平方呎當り 150 噸の強度を得られたとのことであるが供試體に就ては

1. 使用せられたる切込砂利の最大の大きさ如何
2. 切込砂利のファインネス・モデュラス如何

の 2 項と、堰堤コンクリートに就ては

3. コンクリートのウオーター・タイトに對し何等か特別の工法を施行せられざりしや
4. 堰堤軀體の伸縮繼手は如何なる構造とせられしや
5. コンクリート施工の順序及び一日の施工量即ち厚さ長さ等

第二はグラウト・ホールの掘鑿に使用せられたるドリル・ビットに就てであるが第三圖によれば使用せられたるビットは菊形にしてリーミング・エツヂを備へざる様である。之れをドリフターに使用して果して其の効果ありしや、兎に角ビットに就て詳細なる圖面の御提示を乞ふものである。